

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人
札幌市福祉生活支援センター

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

社会的養護を必要とする青少年支援者のための研修会

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

自立援助ホームで児童の支援を行う職員(児童指導員、補助員、パート職員)の他、サポーター、ボランティアスタッフ等のスキルアップを図るための研修事業いたします。

平成 22 年 4 月 1 日に「青少年自立援助ホーム たんぽぽ苑」を開設以来、児童に対する懸命の支援を行ってまいりましたが、問題行動や生活相談業務も多岐にわたることから、スタッフの経験を考慮し、生活指導並びに就業の支援のために各分野の専門講師を招致し研修会を行うことを考えました。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

各専門分野の講師による講義とパネルディスカッション形式の研修会を、公共施設の会議室などで行います。講師は、社会福祉士、社会保険労務士、精神保健福祉士、キャリアコンサルタント等の各分野の専門家を招き、児童福祉施設で働く職員・ボランティアが必要とする知識や技術を習得するとともに、被虐待経験を持つ児童との関わり方(接し方・話し方・指導の仕方)を学び、支援技術の向上を目指すために、平成 25 年 8 月 28 日及び平成 26 年 1 月 23 日の2回にわたり実施致しました。

さらに、個別面談により、被虐待経験を持つ児童と接する日常での職員自身のセルフコントロール、メンタルケアを学びました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

プロジェクトの実施予定日より前に講師との事前打合せを行い、自立援助ホームの特徴などを説明することで、一般的な内容+今回のプロジェクトにマッチした内容で講習を行って頂くことができました。また、職員・ボランティアが日々の支援で疑問に思うことを整理し、当日の講師へ質問できる時間を設けるなど工夫しました。

専門知識を有する講師から、職員・ボランティアの抱える問題「労働と雇用に関する問題・求職活動支援の仕方・被虐待経験を持つ児童との話し方」などへの助言を頂けたことで、日常の支援現場の中でこれまでとは違った視点を持ち、意識を共有することができるようになりました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

今回の研修会で得られる専門講師からの講義内容や助言は、現場で働く職員・スタッフにとって何かに気付いたり、普段からの疑問を解消したりするものとなることを目的として開催しました。実際に講習後には、参加した職員・ボランティアから、「普段、児童と接している中で、自分のやり方で良いのだろうかと感じていたが自信を持てた」「研修に参加して、より良い対応方法のアイデアが浮かんだ」「専門的な見地からの助言を頂けたことで本当に良かった」等の感想が寄せられ、大変有意義な研修会となりました。

また、講習を依頼した講師からの協力体制を築くことができ、日常的な青少年支援の強化を図る活動効果を得ることが出来ました。真如苑様のご支援、本当にありがとうございました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したプログラム、ポスター、研修テキスト等や活動風景の写真を参考資料として提供します。

参考資料あり 特になし

社会的養護を必要とする青少年支援者研修会

・ 8/28（水）の研修会写真資料

北区民センター3階「会議室」・時間帯：午後（13:30～15:30）



社会的養護を必要とする青少年支援者研修会

・1/23（木）の研修会写真資料

かでの2・7 5階「530会議室」・時間帯：午後（9:30～11:30）

